

まちづくり市民会議 第1小委員会議事録⑥

■日 時	2008年2月7日(木) 午後6時30分～午後8時30分
■場 所	太田市役所 10階 政策推進会議室
■出席者	委員9名 浦野委員長、宮越副委員長、相沢、境野、福島 荒井、早川、天笠 市2名 八代、田中 ※欠席委員2名 原澤、佐々木

【概要】

1. 本日の会議の進め方

本日から「太田市における理想像の検討・太田市のあるべき姿」の期間に入った。今後の議事の進め方とテーマの絞り込みに入ろうと考えている。「太田市における理想像の検討・太田市のあるべき姿」は2月から6月、5回の予定。提言書の作成は7月から12月、6回の予定。2009年の1月には提言書を提出するスケジュールとなっている。

今までの検討内容を整理すると、大きな2つのテーマ(総論)と大きな2つのテーマの中の個別テーマ(各論)に整理できると考える。総論は、(1)町内会・地区役員の役割と制度について、(2)安全・安心・快適でコンパクトなまちづくりについて。各論は前記(1)が①行政区ごとの町内会・地区役員の実態・調査と問題点のまとめについての項目ごとの個別テーマ。②今後の町内会・地区役員のあるべき姿などの項目ごとの個別テーマ。前記(2)が①地域や行政区の人口構成の調査・検討についての項目ごとの個別テーマ。②地域や行政区の今後のまちづくりの課題・活性化策などの項目ごとの個別テーマ。の二つに分けて整理できるものとする。テーマの絞り込みについてご意見をいただきたい。

<質疑>

- ・以前提案した「地域SNS」はテーマとしてどのような取扱いになるのか。
- ・SNSは情報の共有手段と考えられるのではないか。情報の共有化は地方自治の基本であり、情報を共有化できるまちづくりを目指すべきである。市の「地域SNS」はまだそれほど普及していないので状況を見ながら検討していくこととしてはどうか。
- ・「地域SNS」の目的や可能性などについて個別テーマとしてもう少し理解を深める必要がある。
- ・前記総論と各論をたたき台にして、次回以降意見を出し合ってはどうか。

2. 意見用紙等の内容説明

①意見用紙【地区の活性化対抗戦】の説明

テーマの絞り込みに入ったが、安心・安全な人にやさしい理念に合うまちづくりについての意見を出した。まちづくりにはトップダウン、ボトムアップ等方法は多種あると思うが、ボトムアップの方法で各地区の状況を捉えながら、まちづくりを考えることが必要と思う。地区がまとまりながら取り組むことを提案したい。「遠い親戚より近くの他人」とよく言われるように地域コミュニティが大切である。

各地区で魅力あるまちづくりについてアイデアを出し合い、地区の活性化対抗戦等を考えてはどうか。

<質疑>

- ・太田市では1%まちづくり事業を実施している。地区で提案し、採択されるものだが、地区によって提案数にばらつきがある。提案がない地区は問題が潜在化しているのではないだろうか。
- ・1月26日に行政センターで説明会があったが、今年は、115件提案され、うち105件が採択された。金額で4千万円ほど。この様な説明会に出席することも参考になる。この事業は、初年度3億円、2年目は2億円の予算であったと聞いている。地区の活性化策として1%まちづくり事業を活用してみるのも一つの方法ではないか。
- ・地域の活性化が重要であり、町内会の見直し、地区役員の意識改革等、重要であろう。
- ・地区で（準）限界集落についての危機感を持って取り組んでほしい。行政の区に対する情報の出し方、区が行政をどの様に活用していくか等課題も多い。
- ・区長と行政のかかわり方は重要なテーマであると思う。小さな区も大きな区もあり、それぞれが抱える課題もさまざまである。

②意見用紙【町内会、地区役員の役割と制度について（行政指導型にむけて）】に基づき説明

人口1,200人、400世帯の区に住んでいるが、現在集会所はない。地区の会館を建てる話があったが、利用方法等に問題を感じ中止になった経過がある。地区の活性化のためや、地区がまとまるために利用するのであれば有効である。

集会所の利用にも地区によって較差があるように、地域の次のような項目を調査したらどうか。①役員選出の方法、三役職務分担、会計担当者の有無、②年間活動行事（昨年実績）や予算編成、③会館の有無・広さ・主な活用事例・使用率、④地域機関誌・会報・報告書等の有無、⑤地域区民会会則の有無・施行又は最新

改定年月日、⑥地区の問題点など。

(上記の項目について各委員が地区の状況を説明)

<質疑>

- ・行政区の運営が不透明である。時間をかけて行政が地区の会則等を把握し、情報公開したらどうか。地域性もあってよい、他の地区のものを参考にできればより良いものができていく。
- ・昔からの居住者が多い地区は、その人たちにとって居心地のよい地区と思うが、古いしきたりが多く、逆に若い世代や新しい居住者にとって地域にとけ込みにくいということもあるのではないか。地区の行事などは良い例である。
- ・地区役員のなり手がいない等、地区は悩みも多い。
- ・地域によっては、施策の恩恵の多いところ少ないところが出てしまう。地域の活性化のためには現状を知ることが重要ではないか。各地区の状況を情報交換したい。
- ・行政指導型に向けてとあるが、どの様な意味合いか。
- ・指導といっても程度により様々であると思う。今回は、最低限という意味合いと理解して欲しい。

③意見用紙【歪みの大きい地域の抜粋】に基づき説明

事務局から提供された町別人口構成データを集計し、歪みの大きい地域を抜粋した表を作成したので報告する。

子どもと成年だけの地域（55歳以上の人口比率20%以下）は、富沢町・城西町・西新町・すずかけ町・新田瑞木町の5町。すでに限界集落・準限界集落（55歳以上の人口比率50%以上）と同様な人口構成は、尾島町・備前島町・前島町・南ヶ丘町・徳川町・新田下江田町の6町。2～3年後に準限界集落と同様になる地域（55歳以上の人口比率45%以上）は、東本町をはじめ17町もある。

子どもと成年だけの地域は、昼間は人気のないゴーストタウンで子どもは鍵っ子、30年後は高齢化地域と言える。

すでに限界地域・準限界地域のうち、特に人口の多い尾島町・南が丘町は悪化している。また、2～3年後に限界集落と同様になる地域のうち、東本町・本町・金山町・藤久良町・高林西町も悪化している。

あるべき姿に近いと思われる地域（55歳以上が28～32%）は、浜町・新井町・西矢島町・牛沢町・矢場新町・安良岡町・植木野町・鳥山上町・下小林町・宝町といえる。

その中で最もあるべき姿に近い地域は、安良岡町・下小林町・西矢島町・植木野町と考えられる。その理由は、グラフの波が少なく各年齢層が均一して安

定しているためである。しかし、やがて限界集落と同様になるのが見えているのは、宝町・新井町・鳥山上町・浜町・牛沢町となっている。

以上の結果から、あるべき姿に近い地域の特性はどの様なものか調査することは大変参考になるのではないか。

<質疑>

- ・まちづくりの原点はそこに住む人口だと思う。人口を減らさないための施策、太田市全体でなく地域の状況を捉えたまちづくりを考えていきたい。
- ・人口減は止まらない。人口密度高める必要がある。そうすれば、商店等が必ず出店する。医院なども同様ではないか。
- ・市内全地区を良い方向に向けることは不可能と言える。小さな集落をなくし人口を集中させることも一概に良いとは言えないのではないか。そこに住みたい人もいるし、なじめない人もいるのではないか。
- ・小集落などの居住者には何が必要か意見を聞くべきである。一方方向の施策では効果的でない。
- ・まちづくり基本条例の理念を生かしたまちづくりが必要である。
- ・高島平や多摩ニュータウンの例を考えてみると、ひずみができただけの原因などの参考になる。
- ・この件は継続して取りあげていきたいと考える。

3. 今後の進め方

- ・2008年3～4月の2回は大きなテーマ（1）町内会・地区役員の役割と制度についての個別テーマについて検討したいので、委員の個別テーマの意見提出をお願いしたい。
- ・次回の意見用紙については、2月22日（金）までに提出をお願いしたい。
- ・議事録を作成し全委員に送付する。

●次回会議のお知らせ

- ・第7回 第1小委員会の開催
【日時】 3月6日（木） 午後6時30分～
【場所】 市役所10階 政策推進会議室